

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (平成29年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (平成29年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	274
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	65
	実践保育学科	110
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	806
東大阪大学柏原高等学校	普通科	722
東大阪大学附属幼稚園		267
合計		2,244

4) 役員・教職員等の概要 (平成29年5月1日現在)

- (1) 役員 理事 7人
監事 2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員 331人

	教 員		職 員		合 計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	9	11	20
東大阪大学	24	29	13	7	73
東大阪大学短期大学部	28	17	19	3	67
東大阪大学敬愛高等学校	42	11	8	3	64
東大阪大学柏原高等学校	54	12	10	6	82
東大阪大学附属幼稚園	16	1	6	2	25
合 計	164	70	65	32	331

2 平成29年度事業計画における進捗状況等

平成29年度は、本校の教育活動をより広く多くの方々を知っていただくことを主眼に事業展開をしてきた。外部の多様な機関や組織との連携協力を進め、有効な資源の活用を図り、教育効果を高めることができた。また、地域への貢献や情報発信をとおして、理解が進んだと考える。

今年度の事業報告を次の6点にまとめ報告する。

1. 教科指導と基礎学力の向上

生徒のキャリアを保証するためには、基礎学力を育成し教科指導において主体的に学ぼうとする力を培うことに尽きる。アクティブラーニングや主体的・対話的な学び等、言葉が先行している感があるが、これからの社会を生きる上で必要な力であり、その育成のためには教員一人一人が授業研究活動に力を注ぎ、互いに切磋琢磨し研鑽を積むことが必要である。

(1) 基礎学力の向上と定着

基礎学力の向上は本校生徒にとって重要な課題である。数学、英語、情報科の授業等で習熟度別授業、少人数指導等、きめの細かな授業の推進に努めている。また、放課後の補習（真-Naviでの放課後学習含む）、基礎力診断テストの分析・活用（校内研修の実施も）、各種検定試験へのチャレンジ等工夫ある授業、取り組みを展開できた。また、1年次より選択「キャリア」、総合的な学習の時間等を活用し、計算・漢字・文章の書き方等、進路実現に向けた基礎能力の向上に系統的に取り組んでいる。

(2) 授業力向上に向けた実践

本校の生徒に応じた指導方法を研究し実践にするため、11月中～下旬に、全教科の公開授業(8教科8名)及び授業の公開(全教員)を実施した。4年目となり定着してきたが、空き時間を利用しての参観のため厳しい面もある。授業内容においては、生徒の主体的な活動を促す工夫、機器を使用しでの授業展開、グループ学習の取入れ等、工夫した授業があったことは一つの成果であった。

また、授業力向上研究会(任意の組織 座長「森山先生」)を発足させ、常勤の若い教員を中心とした授業研究を定期的に行った。授業評価や機器の活用、アクティブラーニング的授業へのチャレンジ等、各々の課題に即した授業を行い、反省会を毎回行った。授業評価での生徒の反応が参考になり励みになっている。

(3) 選択科目の系列化での学び

選択科目(学校設定科目)の系列化3年目。第2学年からの2年間で、専門学校や関連機関等との連携を通して専門的な学習をすることができた。その結果、当初4系列(調理・アニメイラスト・公務員志望・ビジネス実践)の受講生のうち半数を超える生徒が、学んだことを活かす進路を選択した。

今年度も、年間のまとめとして選択科目最終日に、系列受講生徒が各々の系列で学んだことを発表する報告会を開催した。説明には、動画や写真、パワーポイント等を活用し、工夫された報告で聞く側の生徒も真剣に聞いていた。このような機会をもっと多く作ることによって生徒のプレゼンテーション力や表現力等、アクティブラーニングの基本となる力の育成につながっていくと感じた。

2. 生活指導の徹底と生徒支援・相談活動の充実

本校を卒業する時点では、一人前の社会人として通用する人物を育てる観点から、「凡事徹底」を合言葉に生活指導を行っている。生徒の主体性を育成するための生徒会活動の活性化にも力を注ぎ、その充実に努めている。また、生徒の悩み事への対応として相談室の活用にも尽力している。

(1) 相談機能の充実(生徒相談室の充実)

本校では、不登校やその傾向の生徒向けのコース、キャリアアシストコースを設置している。登校に対する不安や悩みの相談ができる場所として生徒相談室を設置し、土曜日のみであるが、臨床心理士(スクールカウンセラー)の配置を行っている。相談に関しては、コースの別なく悩み事への対応をしている。また、臨床心理士や本校教員等を活用して、生徒相談室には月曜から金曜までの授業時間帯に常時在室を実現し、教育相談活動の充実に努めた。臨床心理士への相談は生徒98件、保護者23件、教員32件、その他1件、計154件で、前年度(44件)と比較すると、生徒の相談件数が伸びており大幅な増加となった。また、中途退学、進路変更、不登校生徒の減少に向け、担任による家庭訪問を積極的にきめ細かく実施した。

(2) 凡事徹底の推進

凡事徹底をめざし、全教職員が同じ目線で生徒指導にあたることで効果を上げている。学園の統一目標である挨拶の徹底について、生徒へのアンケート調査(H29.7実施)で、下記の結果となった。昨年より、調査を進めているが、学校全体としてできていると思う者の割合が、前年比約5%増となっている。少し改善されていると感じている。

問「あなたはあいさつができていますか」

第1学年 88.5% 第2学年 88.8% 第3学年 92.3% 平均 89.8%

問「あなたは、学校全体としてあいさつができていますか」

第1学年 84.4% 第2学年 77.0% 第3学年 71.7% 平均 77.5%

「殆どの生徒はあいさつをしていると思っているが、2割強のものはそのように感じていない」との結果である。あいさつの仕方は個人々人によって相違があるが、定着しつつあるよう思う。また、時として生起する生徒の問題行動には毅然とした態度で接し、保護者への働きかけ等により理解を引き出し、協力して取り組むことができた。補導案件には、教育的配慮もふまえながら慎重に対処し、生徒の立ち直りの機会を奪うことがないよう配慮した。本校においても、近年社会問題になっているSNSによるトラブルが増えつつあるのは課題であり、SNS使用上の陰の面への指導(教科、HR)や使用上のルールづくり(生活指導、生徒会、教科)が求められる。生徒指導対応上、必要に応じて補導センター、子ども家庭センターなど外部の専門機関との連携を図り、中途退学の防止に効果があった。

(3) 生徒会活動の活性化

生徒会活動については、担当教員のチームワークと指導力により徐々に活発化している。

生徒会新聞の発行や「毎朝のあいさつ運動」、「心の再生府民運動への参加」「柏高祭の運営」「伊勢徒歩旅行の実施」等、自主的な新しい取り組みを実施したり、継続して取り組まれる実践等、活動が充実しつつある。柏高祭でも、生徒のやる気、自主性が見られる場面も増大している。

3. 進路指導の充実と進学実績の向上

今年度、学校紹介の就職においては、大手企業から中小企業まで多様な就職状況で、100%内定を維持している。景気が上向き、雇用が促進されている現状ではあるが、本校への求人は400名を超え過去最多となっている。しかし、1次で全員が内定する状況には至っておらず、そこに一つの課題が見えている。また、大学等への進学については、指定校やAO、スポーツ、公募等の推薦入試制度を活用し、有名私学への進学者の排出もあるが、大学からの進学生に関する情報が入ってこず、追跡指導での定着状況把握が課題となっている。

今年度、大阪芸術大学への進学が5名(留学生1名含む)となっているのが目を引く。

(1) 進路指導の計画的系統的な実践

第2・3学年の総合的な学習の時間(進路研究)を活用し、進路指導の時間を定期的に設定した。放課後「進学ゼミ」の開講も実施し学力向上に努めた。

また、就職率100%を維持するために、就職希望生徒の勤労観・職業観を育成する取り組みを数多く設定している。進路指導室には担当者が常駐し、生徒の相談にのるとともに進路資料の充実に努めている。昨年度に引き続き、柏原市産業振興課との連携事業で「ものづくり企業見学バスツアー」が実施され、第2学年で20名の就職を希望する生徒が参加した。

(2) 公務員試験への対応

昨年度に引き続き、公務員試験に1名合格者を出すことができた。(警察行政、警察官)

(参考) 自衛官候補生(5名)、消防官(2次試験合格)他公務員系列選択及び同系列で協力していただいている大阪IT会計専門学校での高校生無料講座受講推奨や本校教員の指導の結果、昨年に引き続き合格実績が出ている。

(3) 各種検定資格取得者の増加

選択科目で各種資格を取得するための講座を開講し、従来の「英検」「漢検」「数検」等に加え、新たに「ニュース検定」等の資格取得を目指した。また、ビジネス実践系列受講者から、全商簿記1級、日商簿記2級合格者が出る等、資格取得の推進に貢献している。

(4) 新たな課題

進路指導もメンタル面のフォローが必要な生徒が増えてきており、就労支援等の新たな進路先開拓の必要性が高まっている。

《平成29年度進路状況》

就 職		進 学		そ の 他				
学校就職	公務員	縁故自営	職業技術	大 学	短期大学	専門学校	進学準備	その他
50	1	10	4	97	1	65	0	5

*主な就職先 ⇒トヨタ自動車、トヨタカローラ南海、三菱自動車工業、近畿日本鉄道
新日鐵住金、十川ゴム、ALSOK 大阪、日本郵便、株式会社きんでん 他

*主な進学先 ⇒近畿大学、関西大学、甲南大学、立命館大学、京都産業大学、日本大学
大阪芸術大学、摂南大学、追手門学院大学、東大阪大学、大阪学院大学他

4. 地域連携（地域貢献）及び広報活動の強化

本校は、平成27年9月、柏原市教育委員会との間で、教育資源の相互の有効活用を柱とする連携協定を締結した。それまでも、柏原市のイベントに参加し、ボランティアとして協力する等、相互に連携を進めていた。私学ではあるが、行政組織とつながり互いに協力し合うことで、在籍する園児・児童・生徒の指導に寄与できることは、柏原市の教育にとっても本校の教育活動にとっても有益なものである。今年度は、これまで以上にスムーズな連携が行われ意義深い年でもあった。また、本校の教育活動をHP、FaceBook等を通して広く情報発信に努めた。

(1) 「教育フォーラム2017」及び「夏休み子ども体験教室」の開催

2つのイベントの広報には、校園長会での案内、学校園を通じての案内配付、広報かしわらでの記事の掲載、柏原市教育委員会の後援名義等、柏原市教育委員会・柏原市の全面的なバックアップをいただき、市内には十分PRができた。

教育フォーラムでは、延べ約200名程の参観者があり、午前中の授業参観等に加え、創設以来3年を経過したキャリアアシストコースの進路を含めた報告とパネルディスカッションを企画した。パネルディスカッションでは、教育現場での重要課題である不登校生や発達障害に関する討議をしていた。参加者は、幼稚園から大学までの教育機関の先生及び保護者、生徒・学生、企業や塾関係者、NPO法人、一般の方々等、多種多様な方々の参加があり、参加者アンケートからは非常に好評で有意義なものであったことが読み取れる。パネラ

ーには柏原市教育委員会指導主事先生にも加わってもらっている。

夏休み子ども体験教室では、主に小学生であるが約230名の参加者が12の講座に分かれて、

午前中の2時間、本校の教員や生徒、外部の連携機関等がその指導に当たった。断らなければならないような講座が、いくつも出るほど盛況であった。保護者、兄弟姉妹等の付き添いもあり、入場者は500名を超える人出であった。本イベントには、大阪調理製菓専門学校のパンクラブによるパンの販売や柏原市商工会による地場物産の即販会（商工会大井局長、市地域連携支援課長の参加）、自衛隊大阪地方協力本部による災害派遣や制服・車両展示もあり大変賑わった。

夏休み子ども体験教室（お家でできる簡単実験）



（ぶどうを使った実験）



12月には、ぶどうのイルミネーションを柏原市より借り受け、本校前庭に設置した。設置にも商工会並びに地域連携支援課のご支援をいただき、2日間で完成させることができた。このイルミネーションは、柏原市で学び楽しむための情報ネット「かしわらいイネット」に取り上げられ、現在も紹介されている。



(2) 柏原市教育員会の教職員研修への参加

連携協定事業の一環として、夏季休業に実施される市教委主催の研修会に本校の教職員が参加し、公立幼(ぶどうのイルミネーション)

稚園、小中学校の教職員とともに研鑽に努めている。個人の力量の向上とともに公立学校園の先生方との距離が縮まるよう努めている。

(3) 本校の情報発信

従来から実施している学校での体験学習、出前授業、駅構内の掲示板の有効活用、地元行事への積極的参加等、渉外担当や関係教員並びに部活生の活動により地元住民、近隣中学校との連携が深まっている。このような取り組みや教育活動については、「ホームページ」や「フェイスブック」、「柏高NEWS」「掲示板」等を通じて、情報発信に心がけている。よりよく本校のことを理解していただくために、見直しを行い最新の情報発信ができるよう努めたい。

5. 教職員の資質向上

教員の資質の向上は日々取り組まなければならない課題である。自らの日々の研鑽や各種研修会への参加を通し、資質指導力の向上に努めている

(1) 教職員の授業力向上のため、各教科会議等での教材研究、各教科1本の公開授業を実施するとともに授業公開期間を設け自由に授業の参観ができるようにした。工夫ある授業を展開している教員がいたことは、授業改善の良い材料になると期待したい。

(2) 研修会(校内・校外)参加

新任教員研修(年間随時)、生徒指導研修、私学人研への参加、保護者対応の研修会等、従来から実施しているものに加え、入試広報部、サポート部、外部研修会受講者による伝達研修、また、教員への小論文指導に関する研修会等を実施し、教職員の指導力アップ、資質向上に効果を上げた。また、大学入試改革への対応を図るための研修を実施した。

地域連携の観点から、柏原市主催の研修会への参加(再掲)や教育月間全体会への参加等、市との連携促進を図るため、各種イベントへの参加を行った。

6. 各コースの取り組みから

(1) アドバンストコース

在籍生徒の学力向上、進学実績の向上に努めた。3年生では、指定校推薦に頼らず、一般入試やA〇入試、留学生入試などへも挑戦させ、近畿大学、立命館大学、京都産業大学、龍谷大学、追手門学院大学、関西外国語大学等への合格を果たした。大学入試改革への対応が迫られる中、GTECやe-Portfolioへの取り組みを始める。

(2) キャリアアップコース

学習意欲の向上や自己肯定感の育成を求め、選択科目に8つの系列に再編し2年目となる。系列に関係する専門的な学習を、外部講師を含め専門の先生に指導していただいた。調理やアニメ、簿記等の系列では、生徒が意欲的に学習していた。また、学んだことを活かし進路を決定している生徒も多数いた。簿記については簿記検定受験者もあり、日商簿記2級、全商簿記1級、2級、3級の合格者が出ている。近畿日本鉄道、日本郵便、トヨタカローラ南海等の大手企業から中小企業まで学校紹介での就職100%を維持することができた。

大学等への進学においては、指定校推薦を中心にA0入試や公募推薦入試等を使い、20名が大学・短大へ、18名が専門学校に進学した。

(3) キャリアアシストコース

本コース設置4年目。中学時代に不登校、または不登校気味であった生徒、コミュニケー

ションの苦手な生徒、いじめを受けていた生徒等が36名入学し、昨年に続き2学級編成になる。今年度アシストコース2期生が卒業(27名)した。内訳は、大学(短大含む)進学者が11名、専門学校5名、学校紹介の就職7名、支援訓練機関4名となっている。就職での面接時の対応で不合格となるケースがあり、コミュニケーションの苦手な生徒に該当者が多い。就職に向けた事前の指導の課題として取り組む必要がある。就労支援の機関としてNPO法人や職業技術専門学校、事業所等、新しい進路先の開拓も鍵となる。

また、生徒会の本部役員や柏高祭での舞台発表、学校説明会でのボランティアとして参加する等、積極性が随所に見られ、彼らの成長に大きく役立っている。

(4) スポーツコース

強化部・準強化部に在籍する生徒のコースとして、文武両道、競技実績の向上を目指して連日・連夜、ほとんど休みのない状況の中で活動を展開した。進学面では、今年度も日本体育大学、日本大学、近畿大学、京都産業大学等の有名大学に進学したのをはじめ、就職面でもトヨタ自動車、新日鐵住金、ALSOK等の有名企業に就職することができた。中でも、公務員系列を受講していた生徒が大阪府の警察行政と警察官の両方に合格し効果が出ている。

また、競技実績では、柔道部が創部以来初めて団体戦での全国大会に出場することができた。また、日本拳法部が春の選抜で団体3位をはじめ、バドミントン部(ベスト8)、空手道部、ゴルフ部等も全国大会出場を成し遂げている。

また、クラブを中心に本年度もボランティア活動を積極的に行った。特に、サッカー部、柔道部、空手道部、陸上競技部、日本拳法部等、校内清掃活動や地域啓発活動、市のイベントへの参加等が活発に実践された。

3 財務の概要

別添 平成29年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照